

# 入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校  
3年生 第10号  
2021年6月4日  
編集・発行 吉成正士

人権作文の取り組みとして4日間にわたって書いてもらった感想文。今回で最後です。

今回は、徳島新聞に掲載されていたハンセン病の記事についてのものでした。感想を読んで、「あまりよく知らないハンセン病のことが少しは伝わったかな」と感じました。

それにしても日を重ねるごとに、みなさんの感想は量も中身も濃くなって、ここに載せたい感想がたくさんあり困りました。こんな調子で、発表会の取り組みにも進んでいければと思います。

■小さいときに何も言われず収容されて、家族と過ごせず、というのはとてもつらいだろうし、なんでなんだろう、捨てられた、と私も思ってしまいます。ハンセン病と知られたら差別されてしまうかもしれないと思い、本当に病院にも行けず、職場でも秘密がばれないよう隠し続け、本人はとても苦しかったと思います。差別を受けてきた人たちが何を思って生活していたのか、どんなに苦しかったのかをちゃんと理解して、このような差別をなくしていくのが大事だと思いました。 SM

「砂の器」を観てください。松本清張の小説「砂の器」を映画化したものです。私は教員になるまで読んだことも観たこともなかったのですが、観て、読んで、ショックでした。それまで自分が何も関心をもたなかったことが。「無知は差別を生む」を痛感しました。「何を思って生活していたのか、どんなに苦しかったのか」が、ストーリーから少しは読み取れると思います。

昔の映画で、昭和の匂いがプンプンしますが、それでもぜひ観てほしいと思います。DVDを持っていますので、ぜひ声をかけてください。

■私はハンセン病は誰でもなるかもしれないのに、隔離して、罹った人を差別するのはおかしいと思います。ハンセン病の元患者だと周りの人に知られるのを恐れて、病院にも行けなかったり、肩身の狭い思いをしながら生きなければならないのは変だし、そうさせている社会も間違っていると思います。今のコロナと一緒に、未知の病気に対する恐怖もあって差別になったのかもしれないけど、患者さんは何も悪くないし、悪いこともしないから、差別なんてしても仕方がないし、間違っていると思いました。 YM

▼△▼△▼△▼△▼△▼

■私は、訴訟を起こした人の勇気がすごいなと思いました。私がもし、そんな感じの立場だったら、何もせずに頑なに恨み続けていたと思います。そして、家族もその対象となれば、山城さんのように家族修復を拒むと思います。ある支援者は、「あなたも苦労したけど、家族だって差別された」と言っていたのを見て、自分が一番つらいと思っただけではないんだなと思いました。 KM

「人間としての尊厳を回復したい」

ハンセン病元患者の願いは、この一点でした。何も悪いことをしていないのに、ただこの病に罹ったというだけで自由にできない。差別をされる。同じ人間として、こんな理不尽なことがあっていいわけがない。だから、人間としての尊厳を回復したい。ただそれだけでした。

差別もいじめも、どうしようもないときはとにかく逃げることです。でも、逃げている限りずっと追いかけてくるのもまた、差別やいじめです。そういうときは、闘える人間が闘えばいい。無理をする必要なんてありません。闘い方も様々です。差別やいじめをする下らない人間のために、命を落としてまで闘う必要なんてありません。「生きてなんぼ」です。

■「生きざま」と言われると、すごく難しいなあと思います。理解をしていないからというわけでもないのですが、いろんな差別を勉強して、私の言葉では言い表せないような「生きざま」を経験していて、なんだか「生きざま」が大きすぎて、いろんな「生きざま」があって、書くのが難しいことを、いつの間にか学んでいるような気がします。勇気をもって行動を起こすとか、間違っているおかしいと思うことをしっかり伝える大切さとかも学んだなと思います。すごく漠然としていてすみません。 TA

そうですね、大きすぎますよね。正直でいいです。それはそうです。知りもしない人の人生を、どう言えばいいのかわからない。でも、それだけたくさんのことが入っていて、自分なりに考えているから、そんな思いになれるのではありませんか？ 漠然としていて構いません。これからはいろんな人の「生きざま」を、関心をもって見てください。

■病気というだけで差別されてしまうのは悲しいです。今はコロナのことがあるけど、一番苦しいのはその人なのに、周りで嫌なことが言われていたら、とてもつらいです。隔離政策ではないけど、コロナの感染拡大によって、またコロナに罹った人に対する差別があるのは、ハンセン病のときと同じことをくり返していると思います。差別をしないために、こういった学習をしているのに差別があるのは、まだまだ学習がたりないんだなと思いました。

▼△▼△▼△▼△▼△▼

■やっぱり、いろいろな病気で差別されることはよくあるんだと思いました。今もコロナ差別を受けている人は多いし、「差別をする」という部分では、あまり昔と変わっていないようにも感じました。自分になったら、自分も家族も差別を受けてしまったり、病気になっても、なった人が悪いわけでもなく、家族が悪いわけでもない。何も悪いことをしていないのに差別をするのは、やっぱりおかしいです。 IN

▼△▼△▼△▼△▼△▼

■私はこの作文を読んで、今のコロナと一緒にいたい  
なと思った。ハンセン病に罹った人を隔離して、うつり  
やすいわけでもないのに。今は、コロナに罹った人をS  
NSや家族に嫌がらせなどをしているのと変わらないと  
思った。

知らないうちに収容され、捨てられたと思い親を恨  
む。親は悲しみ差別に苦しむ。なぜそんな社会になっ  
てしまったのだろうと私は気になる。今後はこのような  
ことがないようにしていきたい。 IS

つまり私たちは、ハンセン病問題について、「実は  
学んでなかった」ということです。もし本当に、全国  
の誰もがハンセン病についてしっかり学んできたなら、  
コロナ差別などということは起こらなかったと思  
います。

ハンセン病の問題は、大昔からずっとありました。  
でも、20数年前まで日本では、多くの人に関心をも  
ちませんでした。裁判で国が有罪となって、やっと目  
が覚めたかのように関心をもちはじめたのです。だか  
らといって、それ以来日本国民すべてが変わったか  
といえ、そうではないでしょう。ハンセン病という病  
気があることは知っていても、それがどういうものか、  
そこでどんな思いをしてきた人がいるのか、知らない  
人がほとんどではないでしょうか。すべての学校で学  
んでいけばいいのですが、それもどうでしょう。それ  
だけ無関心であれば、コロナ差別が起きて、何ら不  
思議ではありません。

今後同様の差別が起きないためには、本当に真剣  
に人権学習をしていく必要があるということではない  
でしょうか。

■ハンセン病は、詳しくは知らないけど、人にうつら  
ない病気だと聞いたことがあります。なのに、ハンセン  
病患者は、隔離させられて、苦しんでいるということも聞  
いたことがあります。この世の中には、数え切れないほ  
どの差別があります。それは、人が生み出した差別が  
ほとんどだと思います。人が差別を新しく生み出さない  
ためにも、人の気持ちが変わらなければいけないと思  
います。そのためにもまず、勉強したり、実際に差別を  
受けていた人の話を聞いたりすることが大切だと思  
いました。 FM

それは、「自分との闘い」にほかなりません。

人の気持ちが変わるために、勉強をする必要がある。  
でも、勉強しないからといって、誰かに何か言われる  
わけではないし、しなくても生きてはいける。つまり、  
人権について学ぶことは、余分なことかもしれません。

それでも差別をなくしていくために人の気持ちを変  
えていく必要があります、勉強することが大切だとい  
うなら、あとは、「自分との闘い」です。それを決める  
のは、自分自身です。

■4段目の「差別はダメと何回言うよりも、こうした瞬間  
に歴史が変わっていくのではないのでしょうか」という部  
分が、とても心に残りました。私も中学1年生のとき差  
別のことについて学習したけど、あまり深くは考えてい  
ませんでした。しかし、講演を聴いてから、こんなにつら  
い思いをした人がいて、そんな人をなくすにはどうする

べきだろうと深く考え、自分から知ろうという意欲が出  
てきました。

ハンセン病のことも少ししか知らないけど、講演や記  
事によって、一人一人の心に変化をもたらし、自分から  
「知りたい」と思うようになってくる気がします。人の人生  
は自分とは全く違う目線があるので、私はそこから多く  
の考えを生みだしていきたいです。 SA

▼△▼△▼△▼△▼△▼

■僕はこの話を読んで、差別を恐れない勇気も必要な  
んだと思いました。元ハンセン病患者というだけで差別  
をする人もいます。そんな、人の目にふれてしまうかもし  
れないのに、顔と名前を出して街頭演説するのはすご  
いことだと思いました。

文の終わりにある、「差別は駄目と何回言うよりも、  
こうした瞬間に歴史が変わっていくのではないでしょ  
うか」という言葉は、本当にその通りだと思います。文章  
で何百回読んだりするよりも、差別を体験してきた人の  
一言の方が、よっぽど重みも説得力もあるからです。こ  
れまでに聞いた話などを思い返してみようと思いま  
した。 AH

▼△▼△▼△▼△▼△▼

■日本の歴史を学ぶよりも、差別の歴史を学ぶときの  
みんなの方が真剣だし、上野正子さんが講演するとき  
のように、生きた人の「生きざま」を聞くと、目の色が変  
わるなと思った。

人にばれるのが怖いという気持ちがあると、仕事に  
や集中できないと思うのに、43年も懸命に働き続けた  
のは、すごいことだと思う。 YR

いくら生きていくためとはいえ、明かしたくない自  
分の身の上があるなかで働き続けるのは、並大抵のこ  
とではなかったと思います。気が気でなかったことも、  
一度や二度ではないでしょう。場合によっては、職に  
就いては辞め、また職に就いては辞め、という人もい  
ました。それも仕方ないと思うのですが、それでも続  
ける精神的なキツさ。苦しさ。言いたいことが言えな  
いということは、本当に苦しいことです。特に、心を  
許した人に対しては。やはり、思い、感じたことが自  
由に、当たり前、ありのままに言えることの大切さ、  
なのだと思います。

みなさんが学んできている社会科の歴史の多くは、  
支配者してきた側から見た歴史かもしれません。でも  
逆に、支配された側の歴史もあるはず。その一つ  
として、差別の歴史があるわけ。そんななかで生  
きてきた人の具体的な生々しい「生きざま」は、覚え  
ようとしなくても自然にみなさんに入っていきのど  
と思います。それこそが、本当の学びです。受験のため  
だけの、表面だけをなぞるような学びが、どれだけ薄  
っぺらいか。本当に興味をもって歴史を見つめてみる  
ことです。

▼△▼△▼△▼△▼△▼

このあと、作文発表の取り組みへとつながっていき  
ます。発表をする人、頑張りましょう。聴く人、しっ  
かりまなざしで応援しましょう。そして作文発表の後  
には、その頑張りにつながる発表を返していきましょ  
う。そうやってみなさんは、つながっていくのです。  
つながることは、人権学習の基本です。次号は体育祭。